

令和元年度第4回下関市子ども・子育て審議会 会議録

| | | | |
|-----|---|-----|----------------|
| 日 時 | 令和2年2月5日(水) 14:00~16:00 | 場 所 | 市役所新館5階大会議室A・B |
| 委 員 | 横山眞佐子委員、宮川雅美委員、梅田亜紀子委員、梶山正迪委員、中川浩一委員、 今村方子委員、戸田宏純委員、若松佐織委員、鶴澤香代子委員、河内奈穂委員、 西本和史委員、大井誠子委員、登根里美委員、吉川英美委員、池田理江委員 | | |
| 事務局 | 林部長、三好部次長、 嶋津子育て政策課長、大谷課長補佐、岡崎主査、森脇係長 東矢幼児保育課長、丹嶋課長補佐、村田係長、齋藤課長補佐、森本主査、岡田主査 柳生こども家庭支援課長、谷山課長補佐、守田係長、坂本係長、石川主任、長主任 秋本健康推進課長、金子主査、山田障害者支援課係長、加藤学校教育課長補佐、下村生涯学習課主査 | | |
| 資 料 | <ul style="list-style-type: none"> ・“For Kids”プラン2020(案) ・パブリックコメントの結果等について ・令和2年度特定教育・保育施設の利用定員設定(予定)について ・下関市立就学前施設の整備基本計画(後期計画)(案)について ・放課後児童クラブの整備状況について | | |

| | |
|---------------|--|
| 事務局 (大谷補佐) | <p>子ども・子育て審議会を開催いたします。本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。開会にあたり、こども未来部部長 林からご挨拶申し上げます。</p> |
| 事務局 (林部長) | <p>本日は大変お忙しい中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。今日は、子ども・子育て審議会の佳境の審議となってまいります。“For Kids”プラン、だいが審議が進み、パブリックコメントを実施し、市民の方からの意見、併せて、議会の文教厚生委員会からもご意見もいただいておりますので、反映した案についてご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>また、特定教育・保育施設の利用定員の設定や、就学前施設の整備基本計画についてご審議いただきます。</p> <p>このような計画は、つくればいいというものではなく、つくって何をやるかというところが一番大事です。私たちも、つくった以上、それに向けて全力を尽くすという覚悟です。</p> <p>話は逸れますが、今日、新庁舎の竣工式がありました。施設の目玉として、その1階が子育て支援フロアとなっており、キッズルームなどがあります。大変きれいです。きれいだだけではなく、我々の仕事を通じて子ども・子育て支援に魂を入れなくてはならない、下関の子ども・子育てを良くしていかななくてはならないという新たな決意を持った次第です。</p> <p>審議会は今日が最後になるだろうと思われまますので、一言これだけは言っておきたいということにはぜひご意見をいただきたいと思っております。今日はよろしく申し上げます。</p> |

| | |
|---------------|---|
| 事務局 (大谷補佐) | それでは、会長、進行のほう、お願いいたします。 |
| 会長 | それでは、ただいまから、令和元年度第4回下関の子ども・子育て審議会を始めます。皆さん、よろしくお願いいたします。 では、事務局のほうからお願いします。 |
| 事務局 (大谷補佐) | 本日は、委員総数17人のうち、1名欠席で、16名の出席をいただいています。過半数の出席がありますので、下関市子ども・子育て審議会条例第6条第3項の規定により、会議が成立していることを報告します。 |
| 会長 | それでは、お手元の議事の通りに進めていきたいと思えます。一応、会議は16時までの予定となっています。いつも、委員さんの意見をたくさんいただきたいと思い、延長してしまいましたが、時間が過ぎてどうしてもお帰りになりたい方は、退室されてけっこうです。今日の会議は最後となると思えますので、ご意見、言い漏れがないようにお願いします。 |
| 事務局 (大谷補佐) | まず、本日の配付資料について説明します。本日、配付しています資料は、審議会次第、席次表、委員名簿、“For Kids”プラン2020(案)、パブリックコメントの結果、資料1令和2年度教育・保育の量と確保の見込み、資料2下関市立就学前施設の整備基本計画後期計画(案)について、資料3放課後児童クラブの整備状況についてです。お手元にはない方はいらっしゃいますか。 なお、本日は時間の都合で、放課後児童クラブの整備状況については、資料の配付のみとさせていただきます。ご了承ください。 |
| 会長 | それでは、最初の議事の“For Kids”プラン2020の説明をお願いします。 |
| 岡崎子育て政策課主査 | 【資料説明(パブリックコメント結果)】 |
| 会長 | 皆さんたち、このパブリックコメントについてご意見ありませんか。 市民の方から意見が寄せられ、それに対して、市が誠心誠意回答をすると考えた時に、このような回答でよいでしょうか。 |
| 委員 | 父親サイドからの意見が何点か出てきています。今は、県も、男女共同参画の事業の中で、ともに助け合って子育てをしていく流れはつくっています。そういう意味では、たとえば、106-2-9について、「男性は入れません」と否定するよりも、「今後、検討して善処したい」というように、下関市でも男女共同参画事業の一環で、解決する方向、後押しができるような文章であればと思います。 |
| 嶋津子育て政策課長 | 回答として、「男性は入れません」と断定的な表現であり、冷たい言い方のように受けとられるかもしれません。しかし、母子生活支援施設そのものが、男性は入れない施設であるため、ここは誤解のないように回答する必要があります。ただ、委員が言われた通り、では、男性にはどうなのかというご意見があると思えます。 |

| | |
|-----------|--|
| | <p>男性も子育て支援を積極的に活用できる施設が必要であり、例えば、新しい施設の1階が子育て支援フロアとなっており、プレイルームがありますが、当然、男性も活用して一緒に講義を聞いたり、子どもと遊んだりできます。子育て支援センターやふくふくこども館もそのようになっています。</p> <p>また、回答として、「母子生活支援施設は利用できませんが、子育て支援センターやふくふくこども館は男性も利用できる子育て支援施設です」と記載するかどうかということです。私たちとしては、膨らますことなく、質問に対する回答のみとしてはと考えています。</p> |
| 会長 | <p>いかがでしょうか。「今の現実はこちらだ」ということで回答をするということです。</p> <p>質問の「母子生活支援施設とありますが、父子は入らないのでしょうか」というのは、「父子は入れないのでしょうか」という意味ではなく、この「母子生活」という記載の「母子」に「父子」は入らないのかという質問じゃないかと私は思います。入れないという回答ではなく、この名称そのものに「父子」ということを考えていないのですかという質問ではないでしょうか。</p> |
| 嶋津子育て政策課長 | <p>会長の話聞いて、委員のご意見の趣旨が理解できました。言われた通りだと思います。「入れません」という回答では、質問に対する回答になっていないと思います。ここは、「母子生活支援施設の「母子」という言葉の中に父子も含まれていないのか」という質問に対する回答という解釈でよろしいでしょうか。</p> |
| 会長 | <p>そうですね。市では、母親と子どもが入っている支援施設の中に、父親と子どもが入ると混乱が起きるのではないかという意図があるわけですね。ですから、今のところ、「父子の家庭は入ることができる施設になっていません」と丁寧に回答された方がいいのではないのでしょうか。</p> |
| 嶋津子育て政策課長 | <p>わかりました。この回答に関しては、修正を考えさせていただきます。</p> |
| 会長 | <p>委員、いいでしょうか。</p> |
| 委員 | <p>はい。</p> |
| 会長 | <p>他に意見はありませんか。</p> |
| 委員 | <p>下関市立大学の新しい取り組みについて、私もこの回答を見て初めて知りました。実際には、それぞれの園は、特別支援教育に向けての研修を下関市の総合支援学校や発達センター等から講師を招いたりして進めているのが現状です。ただ、このように挙げていただいているということは、活用できるのであれば、活用するのもよいなと思いました。毎年いくつかの研修を計画するため、この回答がどうということではなく、もしも、幼児保育課で市立大学に声をかけてマッチングをしているのであれば、教えてください。いい勉強になるのではないかと感じました。</p> <p>「研究の動向を注視」という表現が何かもう少し柔らかい言葉にならないか</p> |

| | |
|------------------|---|
| | <p>と思いますが、思い浮かびません。</p> |
| <p>嶋津子育て政策課長</p> | <p>少し、役所的な表現になっているかもしれません。 どのような先生がおり、どのような研究をしているか、また、現場のほうではどのようなことを求めているかについて、「“ For Kids ” プラン 2020」の中で、行政が積極的にマッチングを図っていくということまで踏み込んで回答したほうがよいかもしれないため、もう一度、表現がこれで適正かどうかを考えたいと思います。</p> |
| <p>東矢幼児保育課長</p> | <p>研修の要望がありましたので、課のほうに持ちかえり、園長会等を通じて、どういう方法ができるのか検討したいと思います。回答も検討させていただきたいと思います。</p> |
| <p>会長</p> | <p>大学との連携ということは、市大もですが、梅光、あるいは下関短期大学、東亜大学、それぞれに幼児教育の専門の先生がいます。そのような市の大学との連携を行うということについては、まだ、あまり考えられないですか。</p> |
| <p>東矢幼児保育課長</p> | <p>それも含め、検討したいと思います。今までの研修においても、外部講師として大学の先生を招き、いろいろなテーマで行っています。</p> |
| <p>会長</p> | <p>委員は、大学が市の子育て支援について果たす役割についてどのように考えますか。</p> |
| <p>委員</p> | <p>特別支援教育については、市教育委員会の学校教育課の中に、特別支援教育を専門にしてきた先生方がおられますので、そこの連携のほうももっといいのかと思います。小学校、中学校で、かなりそういう経験を積んでおられます。その研修とタイアップするということも一つの手であると思います。下関短期大学ではそこまで専門的に突き詰めて特別支援を研究している先生が少ないです。 しかし、様々な面を含めると、いろいろな大学と連携しながら支援を行っていくことはこれからの市の方向性であるとは考えます。</p> |
| <p>会長</p> | <p>単に有識者というだけではなく、現実に下関の中に多くの大学があるため、その方たちと一緒に、特に子育てや教育について力を入れたら、市もよりよい結果を出せるのではないかと考えました。</p> |
| <p>委員</p> | <p>この項目は、下関市立大学と特定して記載していますが、下関市は、民間において特別支援教育について豊かな実績をもっているところもあります。そういう民間活力と、それから大学の研究を合わせて、たとえばここにそのセンター機能を構築するような展望、下関市にある特別支援教育に関係する民間団体や大学等をとりまとめるような機関として市が構えていたほうがよいのではないのでしょうか。この回答は、市立大学を強調されていますが、そういう見方ではなく、これまでの様々な業績をうまく活用し、生かしながら、市立大学も含めてとりまとめていく方向性が、展望が広がると思います。</p> |
| <p>会長</p> | <p>いかがでしょうか。</p> |

| | |
|------------------|---|
| <p>嶋津子育て政策課長</p> | <p>最初の意見に戻りますが、確かに「動向を注視してまいりたい」という表現は、意見に対して適切な表現であるか検討する必要があると思います。ただ、意見に対する市の考えを記載することになるため、あまり外れ過ぎない形で回答したいと思います。逆に、この回答をあまり膨らまし過ぎてしまうと、せっかくできた“For Kids”プラン2020に影響を及ぼしてしまうことになることは事務局としては避けたい部分です。</p> |
| <p>会長</p> | <p>パブリックコメントを実施し、市民の方から質問があり、それに対して誠意のある回答をしていかないとなりません。意見を出すと、きちんと回答が得られると市民の方が思わなくてはなりません。もちろん、やります、やりたいと思いますと回答すると、その後どうなるのかということもあります。そこは難しいところです。</p> <p>1番目の意見についてですが、2歳と0歳の双子の子どもを抱えている方、父親が母親のことについて書かれていると思います。この状況を私たちは想像できるでしょうか。2歳と0歳の双子を抱えたお母さんが、一人のおむつを換えている間、もう一人が泣きわめく、2歳の子どものそこら中を走り回り、お膳をひっくり返す。拭いているうちに、こっちの子どもがゴロゴロと転がっていった。このお母さんをどのようにサポートしたらいいのでしょうか。</p> <p>私はこの回答を読んだときに、「双子二人と2歳の子どもを連れて出かけられますか?」と思いました。皆さんはどうですか。育てた人にしかわからないかもしれませんが、一人目の子どもが生まれても母親はどうしていいかわからなくなる、だからこそ親子がふれあえる広場みたいなものをつくり、この会議もあるわけです。しかし、もっと大変な状況です。その人に、「ここへ来たら、ツイنزファミリーという双子の人たちをサポートしてくれるところがありますよ」と回答しても、行けないのです。健診すらも行けないのです。だから、そういうこともひっくるめてその人たちをどう支援するかということが子ども・子育ての最も大切なことであり、私たちの役目であると思います。どんないいプランをつくっても、実際、これが、活用できなかつたら意味がありません。</p> <p>今から、プランができ、そして、子育てフロアができて、では何をするのかということ、皆さんたちに真剣に考えていただきたいと思います。</p> |
| <p>委員</p> | <p>回答に「一時預かりの場所に連れて来てください」とありますが、ファミリー・サポート・センターや乳児家庭全戸訪問事業等の事業があると思います。ファミリー・サポート・センターに登録し、支援を行う人が自宅に出向き、お手伝いをする取り組みが、現在、膨らみつつあります。アウトリーチで支援をする、そのあたりのニュアンスを回答に加えると、会長のご意見が補強できるのではと思います。</p> |
| <p>嶋津子育て政策課長</p> | <p>1番のご意見についての回答案を考えるにあたって、最も私どもも議論しました。状況が目に見え、どのような回答をするべきか、かなり議論しました。</p> |

| | |
|-----------|---|
| | <p>最も言いたかった部分は、「親子ふれあい広場」のことです。子育て支援センターは市内16か所あると思います。要するに身近な場所に支援センターをつくり、場所を提供しますという考え方だと思います。さらに、私たちが利用者支援事業を加え、今度は来る人のために、市として何ができるか、そこをしっかりと加えていく必要があるということです。</p> <p>もう少し膨らませて記載したかったのですが、市の予算を伴う部分になり、正直、書き過ぎてしまうと、いろいろなところから反発が出るといけないところもあったため、若干、気兼ねをしてしまった表現になっているのが正直なところです。</p> <p>毎晩、夜通し3人の子どもが泣き続けて眠れない、そういう母親がノイローゼや病気となるきっかけになる、場合によっては、その矛先が子どものほうに向いていくことも、私たちは心配しています。それに対して、どのような施策を打つかについては、事業のほうで立ち上げようとしているところです。</p> <p>正直、そこまで書き過ぎてしまえないということがあり、この表現に留めさせてもらいました。</p> |
| 委員 | <p>ありがとうございます。今から、そういったところは、しっかり期待して待ちたいと思います。</p> <p>先ほど、会長からもありましたし、委員のほうからもあったのですが、大変な子育ての状況の中で、「市として応援するよ」というメッセージ性、温かみみたいなものがこの文章の中からはなかなか見てとれないところがあります。もう少しお母さん側に寄り、それから、「こういうことがあるよ」というような表現が非常に大事じゃないかと思いながらこれを読みました。</p> <p>ぜひ、そういうコメントの仕方、パブリックコメントに対する回答であるため正式なものであり、くだけるわけではないのですが、3人のお子さんを一生懸命育てるお母さんに対する敬意であったり、優しさみたいなものを加えていただけるとありがたいと思います。</p> |
| 嶋津子育て政策課長 | <p>委員が言われた、書き出しの部分で、「ご事情はお察し」という言葉は適切ではないですが、「大変なのは非常によくわかりました」等を加え、今書いてある回答に入ってしまったほうが、多少なりとも温かみが出るのかなと確かに思いました。</p> |
| 委員 | <p>もう少し温かみがあったらと思います。すみません。</p> |
| 委員 | <p>確かに、事務局の方が言われるように、パブリックコメントの回答ということなので、いろいろあると思います。話が逸れてしまうかもしれませんが、2歳と0歳の双子の子どもがいる状況は、生まれる前にまずわかります。若い夫婦は、もしかしたら、それがどれだけ大変なのか想像がつかないかもしれませんが、その周りのいろいろな経験を重ねた大人たち、保健師さん、病院の看護師さん、先生等は、それがどれだけ大変なことかをお腹にいるときから、その若</p> |

| | |
|------------------|--|
| | <p>い夫婦に伝えることができます。「生まれたら、こういうところがあるよ、すぐ行きなさい、すぐ連絡しなさい。」というようなことを教えてあげられるのではないのでしょうか。そういうふうに、若い夫婦の育児を支援していくという形もあると思います。</p> |
| <p>嶋津子育て政策課長</p> | <p>話がそれますが、10年以上ぐらい前に、柏女霊峰先生と話をする機会がありました。熊本の赤ちゃんポスト創設時の検討委員会の座長をされた方です。まさにご意見いただいたような話をされていました。生まれる前にだんだん不安が大きくなり、生まれてからも育てられないという話がありました。</p> <p>市には、保健師がおり、生まれる前からのサポートを行っていますが、親子ふれあい広場でいろいろな悩みや相談について、全庁を挙げてサポートできる、そういう拠点になる部分をオープンさせていきたいと考えています。</p> |
| <p>秋本健康推進課長</p> | <p>ご意見ありがとうございます。</p> <p>先ほど、保健師等の訪問もあるのではないかというアウトリーチの社会資源のお話が出たかと思いますが、子育て世代包括支援センターが身近な相談窓口として、市内8か所の各保健センターで妊娠届のところから、いろいろお話を聞き取り、双子さんということであれば、妊娠時期から情報をキャッチできている状況はあります。長い経緯の中で、本当に切れ目がない形で、必要な対応、相談支援ということを心がけていかなければいけないということは、重々認識しております。</p> <p>しかし、このパブリックコメントのご意見を読みますと、苦労しているお母さんに対し、「温かく見守りたいけれど、物理的に困難で、どうしたらよいだらう」という父親としてのご意見がとても汲み取れるような内容であると思っています。「全体的な見直しを強く要請します」という意見に対し、具体的な回答にはならないかと思いますが、関係者が、切れ目のない支援を続けていきたいと思っています。こういうご意見ということ、重々承知しながら活動を展開していきたいと思っています。</p> |
| <p>会長</p> | <p>ありがとうございます。なぜこのようなことを言うのかというと、私の会社のスタッフに双子の母親がいるからです。その母親たちが、今のツインズファミリーを立ち上げました。双子、あるいは多胎児を持っている親の苦労というのが、今、少しずつ理解されてきているかもしれませんが、家庭内でとても大変な状況にある母親を、もう少しサポートしてもいいのではないかと思います。</p> <p>それから、この育児休業中の母親が、3人の子どもを抱えているということには、これだけ保育園の受け入れが進んでいるけれど、育児休業を取った途端に入れない状況があると思います。普通に働くと1人の子どもは入所できますが、3人を抱えていたら子どもは保育所に預けられない。その苦労もあると思います。</p> |

| | |
|------------|--|
| | <p>そして、今、事務局が言われたように、市の出す回答として一番わかりやすいのは、「ここに連絡をしたら、いろんなことが教えてもらえます。」「家から外に出なくても、電話1本で、こんなふうにサポートしてもらえます。」もしくは、ご存知と思いますが、「ここにこバンクという団体があり、人を派遣してくれたりするものもあります。」と教えてくれる場所をまずお知らせするという事です。今、言われた対処ができた時に、それがわかれば、もっと気が楽かもしれないと思います。</p> <p>数日前の朝日新聞に、「双子・三つ子の育児」という本がコラムで載っていたのですが、厚生労働省が、この多胎児のための予算を付ける、自治体に人件費等何らかのサポートをするというふうに書いてありました。そういうことも利用し、できることはしていくようにお願いします。</p> <p>困っている人に優しい回答をしてくださると、他のことについても、「下関市は子育てしやすいまち」、「みんながサポートしてくれる」というふうに思われるのではないのでしょうか。聞いた方に対して、あるいは、私たちにもわかる回答をしていただきたいと思いました。</p> <p>では、次お願いします。</p> |
| 岡崎子育て政策課主査 | 【資料説明(計画案修正)】 |
| 会長 | 皆さまいいですか。 |
| 委員 | 了承 |
| 岡崎子育て政策課主査 | 【資料説明(成果指標)】 |
| 会長 | 数字に弱い私は、このページをみながら、下がったほうがいいのか、上がったほうがいいのか、項目によっていろいろ違うことに混乱していました。この説明資料で修正され、少し、数値の目指す方向、上がったほうがいい、低下したほうがいいというのがわかりやすくなったと思います。 |
| 委員 | 色はつけないのですか。 |
| 岡崎子育て政策課主査 | 色分けは、やろうと思ったらできます。一つ、参考ですか、今、上昇とか低下を文字で記載していますが、前回プラン2015の策定時に、矢印にするか、文字にするかを検討し、文字にしたということです。その前の計画は、矢印で表現していました。時間がたつと見方も変わってくるため、変更することはできません。 |
| 委員 | 具体的に数字で表してあるほうがわかりやすいと思います。この表を見る際、一番上からまず見ていくと思います。「下関市は子育てがしやすいまちだと思う」という割合のところの目標値ですが、少し上げるだけでも難しいとは思いますが、目標の数値の案が65%というのは、正直そんなに上がっていないという印象を持ってしまいます。それに比べて、一番下の「仕事と家庭の両立が図 |

| | |
|-----------|--|
| | <p>られていると感じる割合」は前回 53.5%、今回が 59.8%と上がっています。上昇率から考えると、「下関市は子育てがしやすいまちだと思ふ」の目標値としていいのかと疑問に思います。表をパッと見た際に、それしか上がらない目標を立てるのかと思います。</p> |
| 嶋津子育て政策課長 | <p>自分たちに甘すぎたかもしれません。目標であるため、一番に考えることは、達成できる数字を掲げないと、単なる絵に描いた餅になってはいけないということです。「子育てがしやすいまちだと思ふ」割合が上がるのが目標について、5ポイント上げることも考えましたが、70%となると、達成がかなり困難になってしまいます。もちろん、それに対してこれからの5年間努力はしていきます。65%を目標とし、それを超えれば、あとはいくらでも超えてもいいと考えて設定しました。</p> <p>同じ65%でも、「仕事と家庭の両立が図られていると感じる割合」は59.8%からの上昇ですが、社会全体の流れとして女性も社会進出していく、働いていく、そのために保育所等整備していくということで進めており、この数値は、もっと上昇の幅があると見込んでいます。</p> <p>達成が可能という数字は、ぎりぎりのところはいくらだろうかという目線で数字を設定した次第です。</p> |
| 会長 | <p>大ぼらを吹かないということですね。</p> <p>計画は、こんなふうにやっていきたいという前向きな取り組みを入れていきます。ということは、市としての前向きな姿勢を、この目標数値として最初に出したら、わかりやすいのではないのでしょうか。</p> |
| 嶋津子育て政策課長 | <p>計画の成果指標の101ページよりも前の第5章で、いろんな施策について記載しています。施策をこれから5年間かけて展開していくのですが、その結果として、これらの目標数値を設定します。数字を達成することを目標にしているというのと、違うと思います。あくまでも、施策を展開した結果として、達成できる数値がこれだと考えています。</p> |
| 委員 | <p>せめて、70%としたほうがいいのではないのでしょうか。「子ども・子育てがしやすいまちだと思ふ」割合がたったの65%でいいのでしょうか。はっきり言いまして、私だったら100%と書きます。そのぐらいの気持ちを持って取り組まないといけません。</p> |
| 嶋津子育て政策課長 | <p>本音は100%と書きたいと思います。これだけの厚みのある事業ですから、せめて意気込みだけでもそれぐらい持っていないと達成できないだろうと思っています。ただ、「子ども・子育てがしやすいまちだと思ふ割合」に関してですが、お配りしている資料の中で、前回、今回と書いていますが、プラン2015の策定時の数値が62.6%となっています。それに対して、今回の調査の結果は0.1ポイントとはいえ下がっています。つまり、プラン2015の施策を5年間進めてきても、実際には、「子育てしやすいまちだと思ふ割合」が下がってしまってい</p> |

| | |
|-----------|---|
| | <p>ます。これをまず、上昇の方向に向け、ある程度の数値まで、市民の満足度を上げていかないといけないという思いがあるため、正直、65%でもある程度の覚悟を持って取り組まないとならないという思いは持っています。</p> |
| 委員 | <p>数字にもう1つ付け加えていただきたいです。基本目標 の下の、就学前児童保護者が「育児休業を取得した割合」の父親について目標値が5.0というのは、あまりにも低いと思います。会社では制度として、すごくいい制度をどんどんつくってきている中で、下関の目標がこの5.0%というのは、ものすごく低いと思います。私の勤務する会社では、特に若い世代は育児休業を必ず取っています。目標値があまりにも低いと、何の目標にもならないと思います。</p> |
| 委員 | <p>育休を取るお父さんの取得期間について、聞くところによると2週間ぐらいの取得で取ったということになっているとききます。実際には、2か月、3か月取らないと意味がないと思います。市として取り組んでいくところが、やはり重要だと思います。</p> |
| 委員 | <p>制度として、我社も変えてきた部分はありますが、2週間ということではなく、丸々1か月とか、それ以上取得する人もいます。長い人は小学生の低学年までの例もあります。私たちの時にはこの制度がなかったものですから、なかなかそこまでいかなかったのですが、今の若い社員は長く取ります。</p> |
| 委員 | <p>まずは、市役所が率先して取得してってください。</p> |
| 嶋津子育て政策課長 | <p>確かに言われた4.6%が5%、5年掛けて、0.4ポイントですから、しかも国のほうも、小泉大臣が取得したことを発信しようとしている中で、言われたような部分が多分にあると思います。ここの数字が5%のままでいいのか、事務局のほうに話を持ち帰らせていただければと思います。</p> |
| 副会長 | <p>先ほど、委員が言われたように、「子ども・子育てがしやすいまちだと思割合」について、あくまでも目標値ですので、70%を掲げ、これから5年間の間に、少しずついろんな施策に取り組んではいかがでしょうか。</p> |
| 会長 | <p>皆さん、どうですか。この数値でいいと思われませんか。結局数値を上げるということは、このあと、皆さんたちが何かをやらなきゃいけないというミッションがかかってきます。皆さんたち、市民のみんながサポートできるようなまちにしていくという、かかげる照明は明るくないとならない、ちっちゃい線香持っているだけでは危ないのではないのでしょうか。</p> |
| 嶋津子育て政策課長 | <p>「子ども・子育てがしやすいまちだと思割合」の数値目標65%に関しては、事務局として、審議会の意思に従う形を取らせていただこうと思います。</p> |
| 会長 | <p>皆さん、この65%で満足っていう方は手を上げてください。ないですね。では、70%とするほうがよいと思う方はどうでしょうか。</p> |
| 委員 | <p>同意</p> |
| 会長 | <p>審議会の方は、70%としなさいというご意見です。</p> |

| | |
|------------|--|
| 嶋津子育て政策課長 | 今、拝見しますと、満場一致のように見えました。父親の育児休暇の取得については、いかがでしょうか。 |
| 委員 | 10%でいいのではないのでしょうか。 |
| 会長 | 10%に上げる、そして、企業や事業所に働きかける、あるいは、委員の方も育児休暇を取れるような取り組みを検討することとなります。10%にしたほうがいいのではという人は挙手してください。 |
| 委員 | 母親が80%ってなっていますが、男だから、女だからとかっていうのを考えなかったら、分ける必要ありますか。 |
| 岡崎子育て政策課主査 | 数値はアンケート調査の結果であり、ここは分けていた方がよいと判断して算出しています。 |
| 委員 | 父親がまだ足りていないという、反面教師にもなりそうなデータであるため、このままでもおもしろいと思います。 |
| 委員 | パブリックコメントの1番の意見について、赤ちゃんが生まれて、2歳児が1名いる、さっき言われたように、妊娠の時に、相談窓口があることを伝えることが大事です。前回の会議で申し上げましたが、我々の園は、満3歳、正式には2歳児から登園します。保育園は0歳児からです。母親が一番身近な場は、幼稚園や保育園です。そういう場で、必要な情報を伝えることが大切です。そうすると、下関がより住みやすいという市民が70%じゃない、75%、80%ぐらいになります。だから、市だけが考えるのではなく、我々も協力し、みんなで下関を住みやすいまちにしましょう。責任を感じていただくのは当然です。しかし、市民、我々にもその手伝いをさせていただきたいのです。だから、一覧表等も、我々もたいした知識がないためなかなかできませんが、作っていただき、小学校に置いて、今度は、小学校の先生が伝えるなど、みんなで住みやすいまちをつくり、65%から70%、80%に持っていきましょう。そういうことでがんばってください。我々も応援しますし、援助します。 |
| 委員 | どのような施策を行って、この数値目標を設定するのか。具体的な内容が聞けるならば聞きたいし、そこに組み込みが必要ならば、力を入れるところを決め、目標を決めるというほうが、単に決めるよりもいいような気がします。 |
| 会長 | 確かに、できることがいくつかあつての数字の設定と、できることがまだ考えられていなくて数字を設定してしまう場合があります。父親の育児休暇というのは、少しタイプが違うかもしれません。この5%のままで、今後もこの推移を見守っていきましょうということにしますか。 |
| 委員 | 今は、社会の風潮です。特に企業が、働き方改革に取り組んでいます。育児休業、それから有休の消化ももちろんです。もうそういうふうになりつつあります。だから、5%が10%はすぐなります。5%を80%に持っていくのは、それは難しい。だんだん変わってきている。父親は、子どもの面倒を見ます。だから、5%っていう数字も、5年後には20%ぐらいになっています。何回も申し |

| | |
|-------|--|
| | <p>上げて申し訳ないですが、そのぐらいのつもりでがんばらないといけないと思います。</p> |
| 委員 | <p>子育てからだいぶ離れているのでわからないのですが、私、教員で共働きをしていましたが、夫婦のどちらかが育休を取ったら、もう一方は取ることができないという制度の時代でした。今、市はどうなのでしょう。</p> |
| 三好部次長 | <p>正確に、育児休暇制度をどのように運用をされているのかという資料が手元にはないのですが、性に関わらず、両親どちらかが取るようになっていきます。ただ、当然ながら、お父さんもお母さんも同時に取得はできないと記憶しています。</p> <p>先ほどご意見で、育児休業取得等ための取り組みについてありましたが、基本目標5の中の、「子育てと仕事を両立するための支援の充実」、「ワーク・ライフ・バランスの推進」の施策を推進し、結果として表れたものを評価するための指標として設定しています。ワーク・ライフ・バランスの推進は100ページですが、育児休業について、同時に、下段に家庭内における男女共同参画意識の啓発について記載しています。男女ともに子育てができる社会づくりのための取り組みです。これらの具体的な施策を市が行うにあたっては、人権・男女共同参画課が推進しています。啓発である以上は、すぐに効果は得られるものではありません。先ほど、委員さんのご意見にもありましたが、しっかり取り組んでいただける会社もあれば、そうでないところもあります。地道に、社会環境を変えていく必要があるため、なかなか結果が出にくいという状況があります。</p> <p>5%という目標が、本当は2割、3割あって当然だというのは、ごもっともだと思います。この審議会で、委員の方のそういった強いご意見があったということ、担当課のほうに伝えることでいかがでしょうか。</p> |
| 副会長 | <p>市の施策について、ニーズはあるけれど、条件をすべてクリアしていないと利用できないということがたくさんあります。さっきの1番の意見についても、2歳の子どもがいて、双子が生まれたと同時に、育児休暇になったため預かることができせんということになったと思います。一時預かりに預けるよりも、今までいた保育園に預けたほうが、子どものためにもいいと思います。いろいろな支援で、特例というのを少しずつつくっていただいたら、子育てがしやすいようになるのではないかと思います。</p> |
| 委員 | <p>たぶん、1歳児の母親が出産したためにその子どもを預かることができないということはないと思います。</p> <p>目標の数字についてですが、実態だと感じました。たとえば、合計特殊出生率にどうしても目がいってしまいます。確かに上がっているのですが、実際に下関市の人口は、日本もそうですが、合計特殊出生率が2.1ないと維持できないと思います。確かに上がっているのですが、子どもの数は減少すると思いま</p> |

| | |
|--------------------|--|
| | <p>す。</p> <p>また、認可保育所の待機児童が0になっていますが、これも大丈夫なのかと思います。</p> <p>最後、「自分の自身が子どもを虐待していると思う割合」が、1.1%が0%ということで、虐待防止の取り組みを読ませていただきましたが、今までやってきたことと何一つ変わっていない状況の中で、本当に児童虐待がなくなるのかと思います。これも、市としての決意なのか、本当に、これをやろうとされているのか、そういったところを聞かせいただければと思います。</p> |
| <p>東矢幼児保育課長</p> | <p>まず、合計特殊出生率ですが、言われるように人口が減っていますので、こういう目標を掲げても、減っていくという思いはあります。現実には、最近の出生数が1600人を割っており、今後も少しずつ減っていくだろうという状況です。ただし、この合計特殊出生率というのは、統計的に出ている数字であり、私どももこれ以上はコメントを差し控えたいと思います。</p> <p>続いて、待機児童ですが、当然0じゃないといけないということで、これは決意でもあり、実現しなければならぬと考えています。実際、今年度当初は8人出ています。厳しい状況ではありますが、保育園に入所したいという保護者のニーズにぜひ応えないといけないということです。</p> |
| <p>柳生こども家庭支援課長</p> | <p>児童虐待の防止について、確かに、全国、山口県内、下関市内でも児童虐待の相談対応件数が非常に増えています。既にご存知だとは思いますが、その中でも、これまで虐待と言うのは身体的な虐待、性的な虐待、そういったものがクローズアップされてきていました。ただ、最近は、どちらかと言うと、心理的な虐待、ネグレクトが挙がっており、虐待の形態も様変わりしています。これについては、様変わりしているとは言っても、一昨年、昨年と、虐待による死亡事案が出てきた中で、皆さんが虐待に関する認識を強めていき、アンテナの感度が高くなってきた中で出てきたものであり、以前から潜在的にはあったと思っています。そういったものを見逃さないためにどうしたらいいのかというところです。今、私ども、いろんなところに出向いてお話をさせていただいていますが、一般家庭の周りの環境であれば、地域の見守りを大事にしてくださいとお願いしていますし、各学校、保育園、幼稚園等、そういった就学前施設のほうにも、普段の子どもの様子をしっかりと見守り、何かおかしい、何か元気がないなということがあれば、聞き取り、問題が隠れていそうだとすることであれば、市から、児童相談所のほうに相談してくださいとお願いしています。0にできるかどうかというのは、私どもにとってもチャレンジにはなると思いますが、より0に近づけるために、市だけではなく、皆さん、関係機関のご協力もいただきながらということになると思います。</p> |
| <p>会長</p> | <p>だいたい皆さんたち、ご意見はもういいですか。</p> <p>数字が出ると、こだわってしまうところもあるかもしれません。しかし、あ</p> |

| | |
|------------|---|
| | <p>くまでも目標数値ということで、取り組みを進めた結果の数字だと思えます。</p> <p>それから、今のように、世間でいろんなことが出てくるたびにそのことが注目されますが、忘れられていくということもあります。やはり、計画をつくるからには継続し、今より一歩でも半歩でも前へ進んでいくようなことを考えないとなりません。皆さんたちも含め、皆さんたちの後ろにおられる方たちも全部含め、こういうことを後押ししていける下関市でないといけないと思えます。</p> <p>目標値については、「子育てしやすいまちだと思う割合」をもう少しアップしてもらいたいということでは、次にいきましょう。</p> |
| 岡崎子育て政策課主査 | <p>ありがとうございました。数値については、父親の育児休業取得の5%についても検討します。</p> |
| 岡崎子育て政策課主査 | <p>【資料説明（SDGs）】</p> |
| 委員 | <p>SDGsについては、地球規模で取り組んでおり、各市町村や県議会でも議論されています。下関市では、あまりそういう声を聞いていないのですが、ぜひ、市においても、こういうことが問題になっているなど、特に子育てについてのセクションがどこにあたるのか等話す機会をつくり、実行していただけたらと思います。</p> |
| 会長 | <p>そうですね。他人事のように聞くだけではなく、自分たちの周りや、あるいは地域で今後何か取り組みがあったらいいです。</p> <p>他、ないですか。</p> |
| 岡崎子育て政策課主査 | <p>今の“For Kids”プラン2020の案について、審議会の意見を反映させる必要、つまり修正が必要ですが、修正後の計画等について、再度審議会を開催するか、それとも、前回同様、委員長、副委員長の確認のもとで進めてもいいでしょうか。</p> |
| 会長 | <p>どうでしょうか。私と副会長に一任ということでは、いいでしょうか。</p> |
| 委員 | <p>了承</p> |
| 岡崎子育て政策課主査 | <p>それでは、いただいた意見を反映したものを、また、印刷、製本し、皆様にお届けしたいと思います。</p> |
| 東矢幼児保育課長 | <p>【資料説明（令和2年度特定教育・保育施設の利用定員）】</p> |
| 会長 | <p>何か疑問な点等ありますか。委員いかがですか。</p> |
| 委員 | <p>資料の通りなのだなと聞いておりました。</p> <p>無償化が始まり、3歳児の保育園の入園がきつくなったという話を聞きました。一方、幼稚園で、お母さんが就労の証明を出せば一時預かりも無償となるため、まだ、延長の時間帯が短いなど課題もたくさん残っていますが、そこは幼稚園で3歳児の受け入れがしやすくなったと思います。</p> |

| | |
|---------------|---|
| 事務局 (大谷補佐) | 会議の終了の予定時刻となりましたので、会長の方から委員の方にお尋ねいただき、ご都合の悪い方は退席されても大丈夫です。 |
| 会長 | あと一つ議事が残っておりますが、お急ぎの方は退席されていいです。手短かにいきましょう。 |
| 委員 | すみません。帰らないといけないので。 |
| 会長 | わかりました。ご意見はいいですか。 |
| 委員 | 大丈夫です。 |
| 会長 | 言い残したことがありましたら、後で私に言ってください。これ(議事2)についてはいいですか。 |
| 委員 | 特になし |
| 会長 | では、次の議事の説明をお願いします。 |
| 東矢幼児保育課長 | 【資料説明(下関市立就学前施設の整備基本計画(後期計画)案)】 |
| 会長 | 何かご意見はありますか。 |
| 委員 | 2枚目にある菊川の豊東幼稚園ですが、清末、川中と比べると、細いながらもずっと伸びているのですが、これは、菊川こども園の人数の推移をみてということですか。 |
| 東矢幼児保育課長 | この推移の受けはどうなるかわかりませんが、菊川では幼稚園タイプの子どもがあふれている状況であることもあり、私どもとしては幼稚園、こども園、保育園で、保護者の方の説得もいるのですが、提供できたらと考えております。ただ、計画であるため、前倒しになることも、延ばすこともあるとご理解いただけたらと思います。 |
| 会長 | よろしいでしょうか。 |
| 委員 | 特になし |
| 事務局 (大谷補佐) | 次回の審議会の開催時期ですが、今のところ7月ぐらいを考えています。時期が近づきましたらご案内しますのでよろしく願いいたします。 また、1点訂正があります。会議の開催にあたり、16名の出席と申しましたが、1名委員が急遽欠席となりましたため、15名の出席となっております。会議の成立に変更はございません。 |
| 会長 | 長い時間、ありがとうございました。今後の取り組みを真摯に考えられており、私たちも協働で取り組むことを考えながら、計画を進めていきたいと思っております。ありがとうございました。 |